

事業報告

令和6年度 県・市町村社会教育委員研修

日時：令和6年6月21日（金）12：30～15：40
会場：大分県立図書館
参加者：82名

<趣旨>

県および各市町村の社会教育委員が、地域で社会教育事業を推進するために果たすべき役割や今後の社会教育行政の在り方について考えることを通して、主体的に活動に参画する意識を高めるとともに、活動内容の充実を図ります。

【講義Ⅰ】12：40～14：10

講義：地域おこしとは？半生を生き、ここにたどり着いたキセキ
講師：由布市地域おこし協力隊 オン 千晶・ティエロ 氏



由布市地域おこし協力隊 オン夫妻からの講義を聴きました。

東京からUターンで大分に戻ってきた協力隊、千晶さんの湯平での地域おこしの取組と、カンボジア人であるご主人ティエロさんからみた地域おこしの視点等について大変興味深く、エネルギーにあふれるお話を聴くことができました。

特に、ティエロさんの率直な「日本人観」にはっとさせられる場面が多々あり、会場に温かな笑い（苦笑いも）があふれました。

【講義Ⅱ】 14:20～15:35

講義：人権研修は誰のため？ ～部落差別の現実を踏まえてから

講師：大分県人権・部落差別解消教育研究協議会事務局長 足立 哲範 氏

講師ご自身の体験を踏まえた事例や歴史を大変わかりやすく教えていただきました。差別問題はとかく「関係」の有無や「当事者性」をもとに語られることが多いのですが、差別のない社会を実現していくために共にコトにあたっていくという「共事者」という在り方の提示には会場の多くの人が深く考えさせられました。

<参加者感想>

- オンさんの自分が変われば地域が変わる。力強い言葉でした。笑いや明るさが大切。海外からみた地域おこしのお話、とてもシンプルなことが大切なのだと改めて教えて頂いた気持ちです。ありがとうございました。
- オン先生の講演は、地域における役割と関わり方に気づかされました。足立先生の講演もわかりやすく、これまで学んできたことと合わせ、考えさせられました。
- かつてカンボジアからの研修生を受け入れたことがあるが、国民性なのか今も昔も前向き志向だと感じた。部落問題については非常にわかりやすい説明であった。感謝です。共事者になります。
- 地域おこし協力隊について初めて学び勉強になりました。講演の内容は学びが多く、早速地域の良さを探してみようと思いました。ネット上の部落差別について初めて知りました。人権問題について学び、考え、行動し、立場宣言する人になりたいと私も思いました。
- 共事者という言葉が強く心に刺さりました。これまで受講した人権研修の中で最も印象深いお話でした。オンさんのお話はとても前向きで元気をもらえるお話でした。
- 地域おこしのお話はとても新鮮でした。ありがとうございました。また、人権研修は共事者となるために学習を継続していこうと思いました。